

地域の安心・安全を守る 学生災害ボランティアチーム「社会安全隊」

大学生で構成される災害ボランティア組織「社会安全隊」。災害発生時、お互いに助け合う「共助」の精神を持つ隊員達が、実際の被災地に赴いて災害救援活動を行っています。



社会安全隊

活動の概要

| | |
|-----------------|--|
| 目的 | 現代における地域の共助組織のあり方の探索 / 学生の共助意識とリーダーシップの養成 / 自然災害時における救援活動の実施 |
| 連携メンバー および役割 | 高槻市消防本部 / 神戸市消防本部 / 宝塚市消防本部...講師の派遣、合同訓練の実施 大阪府警高槻警察署...防犯キャンペーンの実施 社会安全隊員(学生)...災害ボランティア、各種訓練、防犯キャンペーンへの参加 各市区町村社会福祉協議会 ボランティアセンター...災害時の派遣先等の指示 関西大学社会安全学部准教授 永田尚三...社会安全隊顧問 |
| 活動地域 | 関西大学高槻ミュージックキャンパス、近畿圏全域 |
| 活動期間 | 2011年～(継続中) |

連携の経緯

近年、消防団に代表される地域の共助組織が、構成員の高齢化や地域コミュニティの崩壊により衰退の一途をたどっている。地域防災の要となる共助組織について、より現代に即した形を探るため、永田は有志の学生を集め、災害ボランティアチーム「社会安全隊」を結成することとなった。

解決すべき課題

- (1) 地域の共助組織の衰退
- (2) 災害救援における人手不足



操法(放水)訓練の様子

災害ボランティア

大学の役割

社会安全隊の活動は、主に以下の3つに分類される。

①訓練

社会安全隊では、消防・警察・自衛官の職を志す学生や、地域ボランティアを行いたいという学生が、災害・防災についての専門的な知識や技術を獲得することを目指している。社会安全隊の訓練では、体力錬成や、災害についての座学での学習に加え、各消防署との合同訓練や消防隊員OBによる技術指導によって、操法(放水)訓練や心肺蘇生法、AEDの操作方法等、実際の災害救助活動に必要な知識や技術を習得している。

②災害ボランティア

各地域で自然災害が発生した際、社会安全隊が各市区町村の社会福祉協議会へ連絡し、指示に基づいて救援活動を行っている。これまでは、台風被害のあった地域へ赴いて、住民と一緒に道路の泥かきや住宅の清掃を行ったり、土のうの作り方を教授したりして、それぞれの地域における共助の手助けを行ってきた。

③防犯ボランティア

社会安全隊は高槻警察署の公認団体であり、同署が防犯キャンペーンを行う際、その活動に参加している。

上記の活動を通して、隊員達は災害現場の現状や救援活動の厳しさ、また地域ぐるみで助け合うことの大切さを実感しながら、共助の意識やリーダーシップを学んでいる。

地域防災の要である住民組織が時代の流れとともに衰退していく今、増加する災害に対応する“地域の共助力向上”が大きな課題となっている。社会安全隊の運営を通して現代の共助組織のあり方を探り、各地域における危機管理組織の整備や標準化を推進するため、永田と隊員達の活動は続く。

成果

- (1) 共助意識の体得
- (2) 災害現場での被災者の支援

今後の展望

- (1) 各地域とのより強固な連携体制の構築
- (2) 協力関係先、および安全隊隊員の増加

研究者の紹介



社会安全学部 准教授
永田 尚三
(ながた しょうぞう)

消防防災行政研究について、行政学、公共政策学、政治学の分野から長年研究。研究のみならず、実務家の政策教育活動も熱心に行っている。

現場の声

・伊木翼(社会安全学部3年生 / 社会安全隊隊長(当時))



社会安全隊は日々有事に備え、体力訓練、礼式訓練、操法訓練を実施しています。操法訓練は特に力を入れ、一連の細かい動作にまで気を配り、錬度を高めています。決してやさしい訓練ではありませんが、地域のため、安全のために努力を積み重ねています。活躍の場が無いことが本当は望ましいですが、災害等有事の際には社会安全隊員として、出来る限り活躍できることを目標としています。社会安全隊での一挙一動が社会貢献になるとの自覚を持ち、社会人に向けての成長の場としてこれからも頑張っていきます。